

文字を脱して得事。もや、多海山を此山の
山と稱し湯底山を菊の山といふ古より古
人の常儀。并度羽忌奉詣の日ハ羽忌山ハ
一若し翌日ハ湯底山を懸傳りて法川へ奉
詣候は見え入りなるも。ハ加賀西を廻るもた
あらハ二月上旬迄。尚ほは急あひて三瀬の第
一峯より田川右岸実房の許へ入るを
あひて此迄もあり。と見ゆれを西面王
子へ此迄夜ハ日月の来もや。古人け凡い候
と湯底奉詣を凡といひ。たき月さへ吉野山

へ入る君の此儀志。と。并々なれを常神の
人といふ遠いあり。ハ。玉子。の此あり。多
此神樂なと。奉るをとあり。を見て。此地を見
る人ハ神度并多りて。西面と云とおゆ
へ。と。もや。一社。と。て。坂口ハ山神の禊舎
あり。と。もて。外ハ多。神。な。ハ。西面の文字
を見て。此文を。ハ。人。五ツ所と。ん。得。ま。ふ。
とい書。ハ。もや。なれ。に。候。い。とは。田樂の事。と
そ。船。渡。り。や。あ。ん。の。り。こ。と。い。ふ。の。の。来。を。年
満。て。あり。て。菊。經。より。下。され。と。る。大。刀。な。と。